第3課
10月20日

# 「すべての人を一つにしてください」

**暗唱聖句**

「また、彼らのためだけでなく、彼らの言葉によってわたしを信じる人々のためにも、お願いします。父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。そうすれば、世は、あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じるようになります」（ヨハネ 17：20、21、新共同訳）

「わたしは彼らのためばかりではなく、彼らの言葉を聞いてわたしを信じている人々のためにも、お願いいたします。父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります」（ヨハネ 17：20、21、口語訳）

**今週の聖句**

ヨハネ17：1～26、Ⅰヨハネ5：19、ヨハネ13：18～30、
ヨハネ5：20～23、マルコ9：38～41、黙示録18：4、Ⅰヨハネ2：3～6

**安息日午後 10/13**

## 今週のテーマ

ヨハネによる福音書は、裏切りと死が差し迫っていたイエスの関心事が何だったかを教えています。極めて重要なヨハネ13章～17章にはイエスの最後の教えがあり、「大祭司の祈り」（同17章）と呼ばれるもので締めくくられています。

「それは適切な呼称である。この祈りの中で主は、御自分を献げ物としてささげ、祭司であると同時にいけにえです。それは、献げ物が提供される者たち（2階座敷にいた者たちや、彼らのあかしを通して、信仰に入る者たち）に代わっての祈りである」（F・F・ブルース『ヨハネによる福音書』328ページ、英文）。

この祈りの中心を成すのは、弟子たちや、のちにイエスを信じることになる者たちの一致への関心です。これが祈りの鍵でした――「彼らのためにお願いします。世のためではなく、わたしに与えてくださった人々のためにお願いします。彼らはあなたのものだからです。わたしのものはすべてあなたのもの、あなたのものはわたしのものです。わたしは彼らによって栄光を受けました」（ヨハ17：9、10）。

教会の一致、つまりキリストにおける一致に関する有意義な議論も、この祈りに細心の注意を払わなければ、完全なものとはなりません。イエスは何のために、だれのために祈られたのでしょうか。それは私たちにとって、どのような意味があるのでしょうか。

## 日曜日 10/14　御自分のために祈られるイエス

この大祭司の祈りは、三つの部分に分かれています。最初に、イエスは御自分のために（ヨハ 17：1 ～ 5）、次に弟子たちのために（同 17：6 ～ 19）、最後にのちに彼を信じる者たちのために（同 17：20 ～ 26）祈っておられます。

ヨハネ 17：1 ～ 5 を読んでください。イエスはまず、御自分のために執り成しをなさいます。ヨハネによる福音書に記されている先に起きた出来事の中で、イエスは、御自分の時がまだ来ていない、と述べておられました（ヨハ 2：4、7：30、8：20 参照）。しかし、今や御自分が献げ物となる時が来ていることを知っておられます。地上における彼の人生の劇的結末の瞬間が訪れたのです。そしてイエスは、御自分の使命を果たすために力を必要としておられます。祈るべき時です。

たとえそれが十字架を耐えなければならないことだとしても、イエスは父なる神の御心を行うことで、神に栄光をお与えになるでしょう。イエスが十字架をお受け入れになるのは、ある種の運命論などではありません。むしろそれは、父なる神から与えられた権能を彼がいかに用いられたかという事実の中にあります。彼は殉教者の死を遂げられたのではなく、御自分の受肉の理由を成就すること（この世の罪のために十字架で犠牲的死を遂げること）によって、父なる神に自ら進んで栄光をお与えになりました。

**問 1**　**ヨハネ 17：3 によれば、永遠の命とは何ですか。神を知るというのは、どういうことでしょうか。**

イエスは、永遠の命とは私たちが個人的に神を知ることの中にある、とおっしゃいます。これは、行いや知識による救いではありません。それは、イエスが私たちのために十字架で成し遂げられたことのゆえに、主を知る体験のことです。この知識は、父なる神との個人的関係を通して与えられます。私たち人間は、知識というものを事実や詳細な情報に限定する傾向がありますが、イエスがここで意図しておられるのは、もっと深い、もっと充実したもの、つまり神との個人的関係のことです。イエスの初臨の目的は、より意義深い、人を救う神の知識と、そのような知識がもたらす相互の一致を探し求めることにおいて、人類を導くことでもありました。

**◆　神について知ることと、神を個人的に知ることとの違いは何ですか。神を知る助けとなったどのような体験を、あなたはしたことがありますか。**

月曜日
10/15

# 弟子たちのために祈られるイエス

ヨハネ17：9～19を読んでください。イエスは次に、弟子たちのために祈られます。彼らは、イエスが肉の様ではもはや一緒にいられなくなる数日後に、主に対する信仰を失う深刻な危機に直面していたのです。それゆえ、イエスは彼らを父なる神の配慮に託されました。

イエスの祈りは、この世において彼らが守られるようにというものです。ですから、イエスはこの世のためには祈られません。この世は父なる神の御心に本質的に反していることを、ご存じだからです（Ⅰヨハ5：19）。しかしこの世は、弟子たちが働く場所なので、イエスは、彼らがこの世の悪から守られるようにと祈られました。イエスはこの世のことを気遣っておられます。確かに、彼はこの世の救い主なのです。しかし福音の宣布は、出て行って福音を宣べ伝える者たちのあかしに直結しています。そのようなわけでイエスは、悪い者が彼らを負かすことがないよう（マタ6：13）、彼らのために執り成す必要があったのです。

しかし、1人の弟子は打ち負かされました。その日の夕方、イエスは、弟子たちの中の1人が彼を裏切る決心をした、とすでに言っておられました（ヨハ13：18～30）。イエスは、聖書がユダの裏切りを予告していた事実に言及されたのですが、ユダは運命の犠牲者ではありませんでした。最後の晩餐の最中に、イエスは愛と友情の態度で彼の心に訴えかけられました。「過越の晩餐の時に、イエスは反逆者の意図をばくろすることによってご自分の神性を証明された。イエスは、弟子たちにお仕えになった時に、やさしくユダもその中に加えられた。しかし最後の愛の訴えは無視された」（『希望への光』1054ページ、『各時代の希望』下巻221ページ）。

これまで時折そうであったように、ねたみや嫉妬が弟子たちを仲違いさせることを知っておられたイエスは、彼らの一致を祈り求められました。「聖なる父よ、わたしに与えてくださった御名によって彼らを守ってください。わたしたちのように、彼らも一つとなるためです」（ヨハ17：11）。そのような一致は、人間には実現できません。それは神の恵みの結果、賜物でしかありえません。弟子たちの一致は、父なる神と子なる神の一致に基づいており、このような一致が、将来の効果的な奉仕のために不可欠な必要条件なのです。

真理に対する彼らの聖別や献身も、奉仕には不可欠です。神の恵みは弟子たちの心に働きかけ、その心を変えることでしょう。しかし、もし彼らが神の真理をあかししたいのであれば、彼ら自身が真理によって変えられなければなりません。

◆ **私たちや私たちの人生にとり、「この世に属していない」とは、どういう意味ですか。どのように私たちを「この世に属さない生き方」にするのでしょうか。**

## 火曜日 10/16 「わたしを信じる人々のために」

イエスは御自分の弟子たちのために祈られたあと、その祈りを広げて、「わたしを信じる人々」（ヨハ 17：20）も含められました。

ヨハネ 17：20 ～ 26 を読んでください。父なる神と子なる神が一つでおられるように、未来の信者も一つになるようにと、イエスは祈られました。ヨハネによる福音書のいくつかの箇所で、イエスは父なる神と子なる神の一致に触れておられます。おふたりは互いに独立して行動することがなく、何をするにも常に一致しておられます（ヨハ 5：20 ～ 23）。おふたりは、父なる神がこの世のためにわが子を進んで与えようとされたほど、堕落した人類に対する愛を持っておられ、子なる神も進んで御自分の命を人類のために与えられました（同 3：16、10：15）。

イエスがこの祈りの中で言っておられる一致は、父なる神と子なる神との間のように、愛と目的で一致することです。「互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる」（ヨハ 13：35）。愛によるこのような一致をあらわすことで、彼らとイエス、彼らと父なる神とのつながりを公に立証することになるのです。「彼らの純粋な一致を見せることは、福音の真理に対する説得力のあるあかしとなるはずである」（アンドレアス・J・ケステンバーガー『ヨハネによる福音書』〈ベイカー新約聖書釈義注解書〉498 ページ、英文）。このようにして、イエスが救い主であることをこの世は知るのです。言い換えれば、イエスが祈り求められたこの一致は、目に見えずにはいられません。もしこの世が神の民の中に愛と一致を見ることができないなら、どうして福音が真実だと確信できるでしょうか。

「神は、一つの民が永遠の真理という土台の上に完全に一致して立つように導いておられる。……神は、御自分の民がみな信仰の一致に至るように意図しておられる。十字架にかかる直前のキリストの祈りは、主が父なる神と一つであるように、弟子たちが一つになり、父なる神がキリストを遣わされたことをこの世が信じるようになることだった。この感動的ですばらしい祈りは、多くの時代を経て、今日に至るまで伝わっている。なぜなら、キリストの言葉は、『彼らのためだけでなく、彼らの言葉によってわたしを信じる人々のためにも、お願いします』であったからだ。キリストの弟子と称する者たちは、自らの生活の中でこの祈りに応えようと、いかに熱心に努めるべきであろうか」（『教会への証』第 4 巻 17 ページ、英文）。

**◆　ここで述べられているような一致を実現するために、私たちは自分の生活や教会の中でどんなことをしていますか。もし私たちが教会の一致を望むのであれば、なぜある程度の自己犠牲は不可欠なのですか。**

水曜日
10/17

# クリスチャンの間における一致

マルコ9：38～41、ヨハネ10：16を読んでください。アドベンチストは、自分たちの教派の一致に直接適用されるものとして、ヨハネ17章の祈りを理解しています。三天使のメッセージをこの世に伝える使命を果たすために、教会として一致しなければなりません。この点に関して、異論はほとんどありません。

しかし、ほかのクリスチャンたちとの一致についてはどうでしょうか。イエスの祈りに照らし合わせるなら、私たちはどのように関わりを持てるでしょうか。

間違いなく、神が忠実な人々をほかの教会の中にも持っておられると、私たちは信じています。加えて、神がバビロンの中にさえ忠実な信者を持っておられると、聖書が明らかにしています――「わたしの民よ、彼女から離れ去れ。その罪に加わったり、その災いに巻き込まれたりしないようにせよ」（黙18：4）。

同時に私たちは、黙示録によれば、キリストの名を名乗る者たちの間で大きな背教があること、また終わりの時に偽クリスチャンが互いに結合したり、国と結合したりして、黙示録13：1～17に描かれている迫害をもたらすことも知っています。それゆえにアドベンチストは、教会一致運動に見られるような、他教会との一致への呼びかけに関わることにかなり慎重を期してきました。

では、私たちは他教派とどのように関係を持つべきなのでしょうか。エレン・G・ホワイトは、少なくともこの具体的問題について、ほかのクリスチャンたちと協働するアドベンチスト教会について、次のように記しています。「人間が自分の意志を神の意志に従わせるとき、聖霊は、御自分が助ける人たちの心に印象を与えてくださる。私たちは女性クリスチャン禁酒同盟の働き人を避けるべきではないと、私は示された。絶対禁酒のために彼女たちと一緒になることによって、私たちは安息日順守に関する立場を変えないし、禁酒という問題に関する彼女たちの立場に対して感謝の気持ちをあらわすことができる。扉を開き、禁酒の問題において私たちと一緒になるように彼女たちを招くことで、私たちはこの方針における彼女たちの助けを得ることができるし、彼女たちは、私たちと一緒になることによって、聖霊が彼女たちの心に印象づけたいと待っておられる新しい真理を耳にすることになるだろう」（『福祉伝道』163ページ、英文）。

エレン・G・ホワイトが扱っているのは、特定の時代の特定の問題ですが、彼女は、ほかのクリスチャンたちとの関わり方（とりわけ、働きのために協力するという問題）について、私たちが従うことのできる原則を与えています。

第一に、共通の社会的関心事について働くことができます。第二に、もし私たちが彼らと一緒になるのであれば、私たちの信仰や習慣を妥協させない形でそうしなければなりません。第三に、私たちはこの「一致」を用いて、これまで祝福されてきた貴重な真理をほかの人に伝えることができますし、そうすべきです。

木曜日
10/18

## 愛によって共有する一つの愛

イエスはヨハネ 17：3 において、永遠の命とは神を知ることである、と言われました。Ⅰヨハネ 2：3 ～ 6 を読んでください。一般的に、現代社会に住む人々は、自分自身を法律に従う市民と呼びたがりますが、その同じ人たちが、神の律法を守る聖書的な義務をしばしば重視しません。神の恵みが神の掟を廃止したのだ、と言う人さえいます。しかし、それは聖書的な教えではありません。「掟を守ることは、神を知るための条件ではなく、私たちが神／イエスを知っており、彼を愛していることのしるしなのである。それゆえ、神の知識は理論的知識ではなく、行動に結びつく知識である」（エッケハルト・ミューラー『ヨハネの書簡』39 ページ、英文）。

イエス御自身が次のように強調なさいました。「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。……わたしの掟を受け入れ、それを守る人は、わたしを愛する者である」（ヨハ 14：15、21）、「このことから明らかなように、わたしたちが神を愛し、その掟を守るときはいつも、神の子供たちを愛します。神を愛するとは、神の掟を守ることです。神の掟は難しいものではありません」（Ⅰヨハ 5：2、3）。

ヨハネ 13：34、35 を読んでください。隣人を愛しなさいという命令、それ自体は、新しくありませんでした。神がモーセに与えられた教えの中にも見いだすことができます（レビ 19：18）。新しい点は、弟子たちに対するイエスの命令が、「わたしがあなたがたを愛したように」愛しなさい、と命じているところです。イエスの自己犠牲の愛の模範が、クリスチャン共同体にとっての新しい倫理なのです。

私たちの前に、なんとすばらしい基準が設けられたことでしょう！　イエスの人生は、行動による愛の実際的証明でした。その恵みの働き全体が、愛と自己否定の継続的な一つの奉仕、自己犠牲的な努力なのです。私たちは、キリストの人生が他者の幸福のための愛と自己犠牲の絶え間ないあらわれであったと想像できます。キリストを突き動かしていた原則が、彼の民が互いに接する際の動機になるべきです。そのような愛は、この世にとってどれほど説得力のあるあかしになることでしょう。そのような愛はまた、私たちの一致のためのどれほど強い力をもたらすことでしょう。

◆　**イエスがあらわされたような、他者に対する自己犠牲的な愛を、私たちはどうしたらあらわすことができるようになるのでしょうか。**

金曜日
10/19

## さらなる研究

参考資料として、『各時代の大争闘』第25章の小見出し「政権と教権の提携」と「アメリカと獣の像」以下の文章を読んでください。

「セブンスデー・アドベンチスト教会は、多くの地域教会を持つ世界的な教会であるが、アドベンチストは、キリストの普遍的教会であると主張しない。普遍的教会は、いかなる教派よりも広範囲にわたるものである。それは、イエスを信じ、彼に従う者たちで構成されている限りにおいて、目に見えるものでもあれば、目に見えないものでもある。この神学的な問題は、黙示録で強烈に取り上げられているクリスチャンの間の背教を考慮に入れるとき、際立ってくる。黙示録12章の純粋な教会は、黙示録17章の『淫婦』、大いなる町バビロンと対比されており、それらは次に、黙示録21章、22章において、小羊の花嫁、聖なる都、新しいエルサレムと対比されている。西暦1世紀には、普遍的教会ははっきり目に見えたかもしれないが、例えば中世においてそれを見ることは、はるかに難しく、複雑である。

それゆえにアドベンチストは、神の真の教会という概念を自分たちの教派に限定しないし、機械的にそれを拡大してほかのキリスト教会に当てはめることもしない。神の真の教会は、真にキリストを信じる個人で成り立っている。その一方でアドベンチストは、自分たちが黙示録12：17や12章から14章に出てくる終わりの時代の目に見える特別な神の残りの民だと主張する。この残りの民は、地域的な特徴とともに普遍的な特徴も持っている」（エッケハルト・ミューラー『新約聖書の教会の普遍性』〈アンヘル・M・ロドリゲス編『教会のメッセージ、使命、一致』収載〉37ページ、英文）。

### 話し合いのための質問

❶ あなたの教会は、ほかのクリスチャンたちと協力したことがありますか。それはうまくいきましたか。適切なときに、私たちに与えられた真理を妥協させることなく、いかに彼らと協働することができるでしょうか。

**まとめ** **ヨハネ17章におけるイエスの大祭司の祈りは、今日でも教会の一致を気にかけておられることを思い出させるものです。イエスの祈りは私たちの祈りとなるべきであり、私たちは神の言葉に対する信仰を堅固にする方法を模索しなければなりません。また相互愛が、（たとえ神学的な違いがあろうと、ほかのクリスチャンたちも含む）すべての人との関係を特徴づけるべきです。**